

しい財政環境の中、限られた財源をより有効に活用するとともに、各部署で、徹底して経費を節減し、事業を見直しました。重要度、緊急度の高い事業を最優先に、予算編成に取り組んだところであります。特に、平成23年度は、総合計画後期基本計画の初年度にあたる重要な年。

積極的な施策展開と着実な事業推進を図るとともに、新たな課題や多様化する需要に的確に対応するため、引き続き行財政改革を徹底し、健全で計画的な行財政運営に努めてまいります。

一般会計当初予算額は167億8000万円で、前年度対比1億2000万円、0.7割の増となりました。消防本部運営事業にかかる消防費や公債費の増額、子ども手当の制度改正を含む民生費関係扶助費の増額などが主な要因です。消防本部運営事業にかかる経費などを除けば、実質的には、前年度予算に対し諸事業を切りつめた緊縮型の予算となっております。

まちの将来のために

市発展の鍵を握る重点港湾の御前崎港。利活用促進と地域振興のため、これまで以上に努力

喫緊の重要課題は防災対策

を重ねてまいります。

農業関係では疲弊する第一次産業へ活力を注入しようと、県砂地ほ場跡地北側の用地を確保。農業振興拠点施設の整備計画を練ってまいります。

観光事業は富士山静岡空港を最大限に生かすべく行政、企業、団体、市民が知恵を絞り、官民一体となって活動に取り組む必要があります。牧之原インターから空港、港を結ぶ473号線バイパスも完成し、陸・海・空のインフラが整いました。今後はこのインフラをどう生かすかも重要な鍵となります。

超高齢化社会への対応と多様化する福祉への需要は、年々増加してまいります。少子化対策も重要であり、母体を守る子宮頸がんワクチン費用を助成し、不妊治療への支援なども続けてまいります。

教育は、本年度から力を注いでいる「愛燦々共育」と「ホームナーモデル運動」を推進しながら、一層「御前崎の宝」を磨いていきたいと存じます。

消防署は、市内中心部へ拠点を移すことで機能が充実してくると存じます。鈴木鉄工所跡地へ浜岡交番とともに建設していく予定です。

当初予算は、東北地方太平洋沖地震の前に編成されました。原子力行政を取り巻く状況の変化は、本市の財政状況にも影響することが予想されます。それに伴い、本年度計画していた事業の廃止や見直しが生じます。総合計画や中期財政計画を抜本的に見直す必要もあります。厳しい財政状況の中でも、災害に強いまちづくりを進めるとともに、健全で計画的な財政運営に努めてまいります。

平成23年度会計別当初予算総括表

※単位は万円

会計区分	本年度予算額	前年度予算額	増減率	
一般会計	1,678,000	1,666,000	0.7%	
特別会計	国民健康保険	371,700	340,400	9.2%
	老人保健	—	121	皆減
	後期高齢者医療保険	25,860	27,602	△6.3%
	介護保険	231,979	227,185	2.1%
	農業集落排水事業	33,980	31,660	7.3%
	下水道事業	61,200	64,000	△4.4%
	工業団地建設事業	22	20,023	△99.9%
	財産区計	7,944	7,903	0.5%
企業会計	病院事業	513,300	438,833	17.0%
	水道事業	129,381	127,077	1.8%
総額	3,053,365	2,950,804	3.5%	

※表の金額は、1万円未満を四捨五入しています。